

平成26年度に建設工事で発生した事故事例（工具・資材による事故）

事故概要:

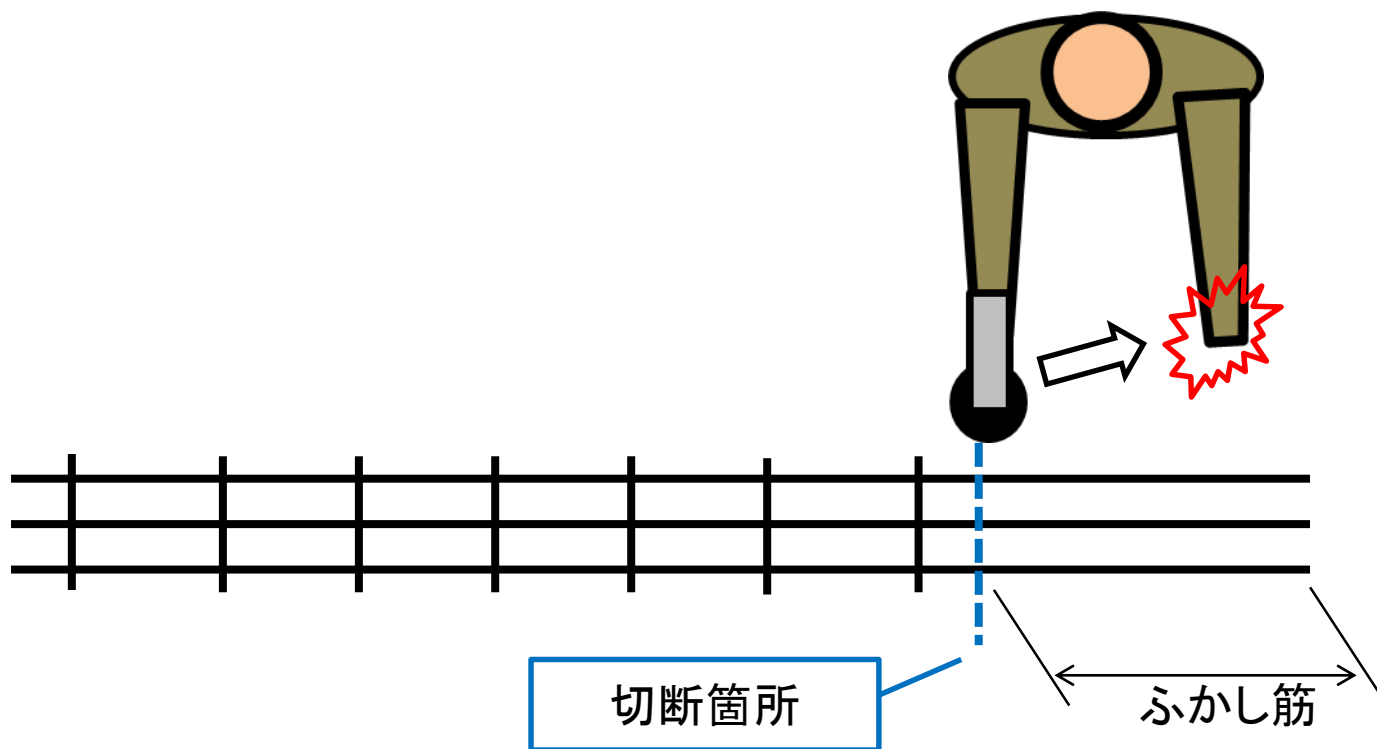
基礎配筋の余分な鉄筋（ふかし筋）をグラインダーにて切断していたところ、工具が軍手をした手より離れ、左手首に当たり負傷した。

事故原因:

・作業員の不注意

改善対策:

- ・安全教育の徹底
- ・滑り止め付き手袋を使用する



分類: 鉄筋工、組立

被害状況: 2週間の加療（左手関節内側挫滅創）

平成28年度に建設工事で発生した事件事例（その他による事故）

【事故概要】

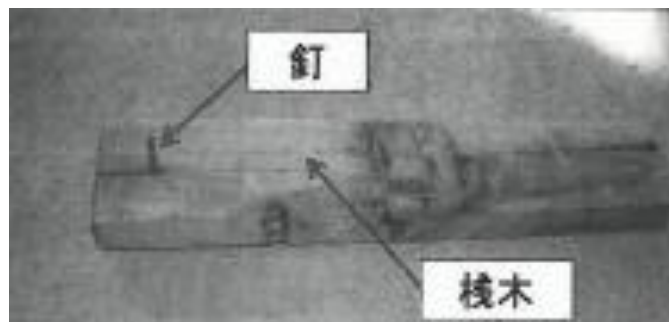
建築工事において2階と3階間の中間踊場で作業員1名が階段配筋を実施していたが、取り外した栈木(階段床型枠の傾斜部分の足掛けとして一時的に釘で取付けていたもの)を、付近の壁型枠金物の上に仮置きした状態で作業していた。配筋作業中、仮置した栈木が中間踊場の床面に釘が上向き状態で落下したが、作業員がこれに気づかず、栈木の釘を踏み左足底を負傷した。

【事故原因】

・取り外した栈木を釘がむき出しのまま仮置きし、その付近で作業していた

【改善対策】

・整理・整頓・清掃の徹底
・滑り止め栈木の取り外しに関する作業手順(早期の釘仕舞、片付け等)を規定し周知徹底する



【分類】 鉄筋工、組立

【被害状況】 左足底挫創 約5日間の加療見込み